

# 組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名：

薬学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p><b>①-1 目標</b></p> <p>○教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上を含む)について 学生・教員・自己の三者による授業評価による授業改善、および、「ベスト・ティーチャー賞」によるインセンティブ向上を目指す。「FDフォーラム」等のFD活動をより活発に展開し、更なる教員の意識向上に努める。これらのFD活動を根拠とする評価から、授業担当者は、従前の既得制を廃し、分野別コーディネーター制を取り入れて、真の教授力を有する教員を選出する。平成27年度新カリキュラム改革に向け、万全の準備態勢を図る。</p> <p>○教育方法・内容について e-learning、クリッカー、シャトルカード等、効率的な教授法を啓蒙する。大学病院薬剤部と実務家教員の連携を強化し、実践的かつ機動的な薬剤師(薬学科)教育の充実を図る。</p> <p>○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について 国家試験の高合格率を目指す(薬学科)。90%以上の大学院進学率(創薬科学科)に耐えうる基礎的学力の更なる充実をはかる。「キャリアパスセミナー」や「就職セミナー」を開催する。</p> <p>○学生支援について 少人数による担任制を更に充実し、学習・生活支援体制の強化をはかる。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>○教育の実施体制について： 学生・教員および自己による授業評価を実施し、授業の改善に努めた。年間3回のFDフォーラムを実施し、教育に対する意識の向上を図った。さらに、分野別コーディネーターを設けて、平成27年度及び平成28年度と続くカリキュラム改革に対応できる教育体制の構築に向けて検討を始めた。</p> <p>○教育方法・内容について： 液晶プロジェクターの効果的な利用やシャトルカード利用による学生個々の理解度の確認などを通じて、良質な教育の実施に努めた。より充実した薬剤師教育を目指し、カリキュラム再編を含めて、検討を開始した。</p> <p>○教育の成果について： 薬学科の学生にあつては、国家試験合格を念頭に、また、創薬科学科の学生にあつては、大学院進学を念頭に、応用力につながる基礎学力が身に付くよう教育に努めた。就職支援として、数多くのキャリアパスセミナー、就職セミナーを実施した。</p> <p>○学生支援について： 学生の学習・生活支援における担任制の重要性を教員に啓蒙し、担任制を徹底させることで、学生の学習・生活支援に努めた。また上述のように、就職支援も積極的に行った。</p>
<p><b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>○三者(自己・学生・同僚)による授業評価結果からの検証と授業改善</p> <p>○シラバス(活用・記述例)</p> <p>○国家試験合格率(薬学科)、就職率(創薬科学科・大学院)</p>	
<p><b>②研究領域</b></p> <p><b>②-1 目標</b></p> <p>○研究水準及び研究成果等について ・「救急薬学」研究分野等各種臨床薬学分野の発展に全面的に協力・展開した。その結果、書籍の出版にこぎつけ、また神戸大学病院との共同研究、川崎医科大学病院との共同研究を開始するに至った。</p> <p>○研究実施体制等の整備について ・若手の科研費申請書を校正・指導する等の方法で、科研費等の外部資金獲得に努める。</p> <p>・「先端薬学教育・研究支援センター」を充実させ、学部としての研究を支援できる業務体制を継続的に発展させる。</p> <p>・前年度の検証のもとに、共同機器(室)、オーブンラボの利用の透明化・受益者負担をはかる。</p> <p>○その他 ・徹底した「研究コンプライアンス」「研究倫理」についての指導・周知を継続的に行う。</p> <p>・価値の高い研究業績を挙げ、それをホームページ等で広報する</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>○研究水準及び研究成果等について ・「救急薬学」研究分野等各種臨床薬学分野の発展に全面的に協力・展開した。その結果、書籍の出版にこぎつけ、また神戸大学病院との共同研究、川崎医科大学病院との共同研究を開始するに至った。</p> <p>○研究実施体制等の整備について ・若手の科研費申請書を校正・指導する等の方法で、科研費等の外部資金獲得に努めるべく内部募集し、複数教員の申請書指導を複数回実施した。</p> <p>・「先端薬学教育・研究支援センター」を充実させ、学部としての研究を支援できる業務体制を継続的に発展させた。</p> <p>・前年度の検証のもとに、共同機器(室)、オーブンラボの利用の透明化・受益者負担をはかった。また共同機器の充実も行った。</p> <p>○その他 ・徹底した「研究コンプライアンス」「研究倫理」についての指導・周知を継続的に実施した。</p> <p>・価値の高い研究業績を挙げ、それを薬学部ホームページおよび全学ホームページで広報した。</p>
<p><b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>○論文・著書等の研究業績の状況</p> <p>○競争的外部資金受入状況</p> <p>○学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(SSリスト)</p> <p>○若手教員、女性教員、外国人教員の採用状況</p>	
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p> <p><b>③-1 目標</b></p> <p>○地域社会との連携、社会貢献：公開講演会を一般社会人や高校生をも含めたかたちで実施し、薬学に関する社会の認識を高める。</p> <p>○国際交流・協力：キャンパス・アジア事業に協力するとともに、韓国・成均館大学との連携を進める。また、インド拠点での活動を継続的に発展させる。</p> <p>○その他：薬剤師の卒後教育を、地域の職能団体と連携して実施する。</p>	<p><b>自己評価</b></p> <p>○地域社会との連携、社会貢献：一般社会人および薬剤師を対象とした公開講座を実施し、薬剤師の卒後教育、また一般社会人に対する薬学への認識度を高めることに努めた。更に、高校生を対象とした公開講演会を実施し、薬学に対する意識の向上に努めた。</p> <p>○国際交流・協力：韓国・成均館大学薬学校での英語開講科目の体験受講に学部学生(7名)を派遣した。また、キャンパス・アジア事業ナノバイオコース(短期)として成均館大学薬学校の学生5名を招き、2週間のプログラムを実施した。</p> <p>○その他：岡山県薬剤師研修協議会とともに、講演会を開催し、薬剤師の卒後教育に努めた。</p>
<p><b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>○公開講演会等の実施状況</p> <p>○地域貢献・国際貢献への協力の状況</p>	
<p><b>【総括記述欄】</b></p> <p>教育、研究、社会貢献領域、いずれも当初目標を良好に達成したものと評価している。来年度は、26年度に得られた成果を踏まえて、教育領域では、60分授業・クウォーター制に対応する専門・教養教育のカリキュラムの具現化等を中心に、より良い教育の実施を目指す。研究面では、引き続き、科学研究費補助金申請の指導等を通じ、臨床薬学分野、基礎薬学系の研究強化を促す。社会貢献領域においては、公開講座による一般社会人、薬剤師に対する薬学に関する啓蒙を続けていくとともに、アジアの国々を中心に、国際交流の促進を図る。</p>	